



よ坊さんだより

▼30▲

喫煙は「百害あって一利なし」といいますが、お口（歯のまわりの組織）にとってもいいことはありません。喫煙は歯周病を引き起こす、あるいは歯周病を悪化させます。

喫煙は「百害あって一利なし」のニコチンとともに歯周組織（歯のまわりの組織）に悪影響を及ぼします。更に、

免疫機能の抑制、さらに歯石の形成の促進など、多くの悪影響を及ぼします。

また、受動喫煙が妊婦や小児に与える影響として、気管支ぜんそくなどの呼吸器疾患、胎児の発育異常、乳幼児突然死症候群、小児の発育・発達と行動への影響がわかっています。

喫煙は百害あって一利なし

たばこに含まれているニコチンは喫煙後比較的早い時間に唾液に溶け、その後、歯ぐきの上皮やお口の中の粘膜から吸収されて血液中

ニコチンの代謝産物は長い時間にとわたって末梢血液内に存在することから、持続的に歯周組織に悪影響を与えることとなります。すなわち、末梢血管の障害、

響などの危険因子となることなどが注目されていますが、これらの影響は小児だけではなく、成人のお口の中、特に歯周組織への影響もあ

歯周病⑧

えることとなります。すなわち、末梢血管の障害、

特に歯周組織への影響もあ

ります。具体的には歯ぐく
きにおけるメラニン色素の沈着などがあるといわれています。

歯周病がいろいろな全身疾患に大きく関わっていることがわかってきています。その歯周病を引き起こす、悪化させる喫煙をやめ、歯周病をきっちりと治療、予防することは非常に大切

です。自分では気になるところがなくても、ぜひかかりつけの歯科医院で定期的に健診を受けましょう。

（京都府歯科医師会 広報室次長 石原宗和）

*「よ坊さん」は日本歯科医師会のイメージキャラクターです。